

大学入学後は先輩が読んでいた「モーニング」をもらえることになり、「課長島耕作」を楽しみにしていました。

そんな中途半端なマンガファンですが、とても好きだった作品があります。後にドラマになりましたが、「家裁の人」（毛利甚八作・魚戸おさむ画）という作品です。ご存じの方いますか？家庭裁判所の裁判官が主人公なので、ずっと「家裁の人」だと思っていました。魅力は2つあり、とても優しい主人公が困難な状況の若者を救い出すというストーリー、もう一つは、絵がとてもきれいなのです。表情がすごくわかる丁寧なタッチで名優が演じるように感情がこ



ちらに伝わってきます。

実は数年前、この絵を書かれていた魚戸おさむ先生と交流できることになり、その記念に色紙も書いていただきました。今では私の部屋の宝物です。

魚戸先生との出会いは、先生が食育にも関心を持っておられ、食の大切さを訴えられているということと共通の知り合いに紹介していただきました。その、魚戸先生の「食卓の向こう側」という本が復刻版として今月再出版されるそうです。私もぜひ読んでみようと思います。

小児の口の機能

うちの診療室は小児の患者さんが少ないので実感はないのですが、と

にかく多方面から小児の口の機能が低下しているという話を聞きます。風船ガムを膨らませられない子供が多いという話があったり、吹き戻しができない子供もいるとか。

自分自身は、風船ガムを膨らませたくて一生懸命に練習したり、お祭りで吹き戻しを買ってもらって面白く吹いていたという記憶があります。そういうことも口の機能向上には良かったのかもしれませんが。スマホゲームで口の機能は向上しません。子供たちが一生しっかり噛んで食べられる環境を作ってあげたいですね。

